

Human ヒューマン

2018.6 Vol.11

CONTENTS

02 特集

第1回「北海道観光・地域振興特別講座」を開催!

04 OB インタビュー

奥尻町教育委員会事務局 社会教育係 学芸員
稲垣 森太さん

06 ゼミ紹介

日本文化学科 手塚 薫 3年ゼミ(1部)
英米文化学科 柴田 崇 3年ゼミ(1部)

07 新任教員紹介

英米文化学科 准教授 渡部 あさみ
日本文化学科 講師 関本 真乃

08 2017年度 卒業研究コンテスト

09 2017年度 卒業研究題目一覧(一部)

10 英語外部試験

11 人文学部 TOPICS

第15回人文学の挑戦報告/「はじめての人文学」刊行
人文学部OB・石井僚一さん第一歌集刊行
2018年度人文学部新入生歓迎会

裏表紙 就職・進学情報 留学状況/資格取得状況



「好き」から 「なぜ」を探す旅



第1回「北海道観光・地域振興特別講座」を開催！

人文学部では、今年度より「北海道観光・地域振興特別講座」を年に3回主催することになりました。本学部には旅行・観光業界への就職を考える学生が多くいますが、日本文化学科・英米文化学科で深めた「文化」理解を観光という「異文化接触の現場」で活かすためには、理論的な考察だけではなく、最前線で観光に関わっている様々な方々から直接お話をうかがう機会が必要だと考えたからです。

初回は、行政の立場から、北海道観光の新たな可能性を模索している国土交通省北海道運輸局観光部の観光企画課課長・実重貴之さんにご講演いただきました（右のチラシをご覧ください）。

北海道は海外からの旅行者にとって魅力溢れる土地なのに、そのポテンシャルに私たち自身が気づいておらず、それを掘り起し価値を高め受け入れ態勢を整えアピールする努力が足りない。だからこそ、観光客が行く場所もそこで行う活動も偏っている。それを打開するためには、

新しい形態の観光として「アドベンチャートラベル（AT）」を推進することが死活的に重要である。「自然」「アクティビティ」「異文化体験」を組合わせたATこそ、北海道観光を新たなステージに押し上げるための起爆剤になるはずだ。

こうした主旨のことを、学生だけでなく学外から来てくださった方も含め80人近くの聴衆を前に、実重さんは熱く語っていただきました。

講演の後は、下に示したように、活発な質疑応答が交わされ、このテーマへの関心の高さで学生のみさんの意欲が感じられました。

今回は秋に開催します。今度は、地方で観光行政に携わっている自治体職員の方や観光業に携わっている民間の方などをお呼びして、やりがいやご苦労、今後の展開、人材養成という点で大学に望むことなどを、当事者の立場から話していただく予定です。どうぞご期待ください。

また、私たち自身も、「文化を体験してもらう」とはどのようなことなのかについて研究を進め、それを発信し、観光に関わる方々とのコラボレーションを目指していきたいと思っています。



【質疑応答（抜粋）】

ATによって地域にたくさんのお金が落ちるのはなぜですか？

ATが、地域でしか提供できないコンテンツを楽しんでもらう観光形態だからです。ただし、そのための態勢を整えることが重要です。

北海道への観光客数が春と秋に落ち込むのはなぜですか？

春と秋に「落ち込む」のではなく、夏と冬が「非常に多い」と見るのが妥当です。春と秋もその水準にできるだけ近づけたいですね。

道央圏に観光客が集中していますが、そのような偏りがあるのはなぜですか？

新千歳空港のある道央圏の利便性もありますが、それ以外の地域の魅力が十分に伝わっていないことも大きく作用していると考えられます。

主要都市以外に足を延ばすようになって、そこで宿泊しなければ地域にお金は落ちないのではないのでしょうか？

夜（星空観察など）や早朝（雲海見物・釣りその他自然体験など）のコンテンツを充実させることによって、宿泊を伴う観光の可能性を広げることが考えられます。

観光資源に乏しい地域はどうしたらよいのでしょうか？

住み慣れた地域には「何もない」と思ってしまいがちですが、観光客の目線で見ると魅力はたくさんあるものです。地域振興は、そこにしかない素材を発掘し、どのように磨きをかけるかにかかっています。



外国系の資本による観光開発には、行政としてどう対応するのでしょうか？

日本企業であっても外国企業であっても、北海道の観光を担うアクターには平等に対応し支援を惜しみません。いずれにせよ、地域の社会、経済、文化が豊かになるような仕組みにしていくことが重要だと考えています。

ATの現場までの交通手段は？ 公共交通機関がカバーする領域が縮小するなかで対応可能でしょうか？

ATのために訪れる観光客が増えれば、公共交通機関の維持にもつながります。また、交流人口が拡大することで、別の形態の交通手段も確保できるようになると期待されます。

ATを補佐するガイドはプロなのでしょうか？ ATは1つの地点で何日も行われるのでしょうか？

まだ多くはございませんが、プロのガイドです。そうした人への需要は多く、収入も高額になります。所得の高い外国人観光客の中には、それなりの時間をかけて（1週間～10日）いろいろな場所で様々なATを体験したいと思っている人が多いと考えられます。それに対応できるガイドを育成する、そしてそのためにもガイド人材の裾野を広げることが必要なのです。

北海道運輸局によるアドベンチャートラベルガイド養成の実証事業 NEALリーダー取得及びガイド体験プログラムの参加者を募集！

北海道は、人の暮らしと豊かな自然が近接しているためアクティビティを楽しむフィールドにアクセスしやすく、加えて縄文文化やアイヌ文化も存在するため、欧米を中心に急速に発展しているアドベンチャートラベル（以下ATという。）市場において、世界有数のデスティネーションとなる大きな可能性があります。このATを推進するにあたっては、北海道の自然や文化等の魅力を外国人旅行者向けに楽しくわかりやすく伝えることができる、より多くのATガイドの存在が不可欠となります。

【講師】 荒井一洋氏



1977年生まれ。札幌市出身。2001年から北海道東川町にて「大雪山自然学校」を設立し、英語でのエコツアーや子供自然体験活動を実施している。近年は、NPO 法人日本エコツーリズムセンター理事、アジアエコツーリズムネットワーク理事、北海道アドベンチャートラベル協議会長の活動をとおり、国内外にて、観光を手法とした持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

そのため、北海道運輸局では関係者と連携し、8月に東川町で荒井一洋氏を講師としてATガイド養成プログラムを行う予定です。英語が堪能な



学生やアウトドアを学んでいる学生を募集し、当該学生に3泊4日の日程で自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格を取得し、外国人留学生を相手としたガイド実践を行ってもらうというATガイド体験プログラムを予定しています。

※詳細につきましては、別途配布するチラシをご覧ください。

NEALリーダーとは

「Nature Experience Activity Leader」のことで、自然の中で感性を磨いたり、土地の伝統文化や食文化に触れたり、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及に貢献する者の資格。国立青少年教育振興機構とNPO 法人自然体験活動推進協議会が、官民一体となった体験活動に関する指導者制度。

OBインタビュー

O B i n t e r v i e w

博物館や美術館の学芸員とは違った、離島ならではの学芸員のスタイルがある。島の人の交流を促進し、郷土の歴史や文化、自然を守り、利活用して情報発信するオールラウンダーの学芸員活動が、島の活性化や観光振興、地域貢献にもつながっていく。

奥尻町教育委員会事務局
社会教育係 学芸員

稲垣 森太さん

2005年3月人文学部日本文化学科卒業、学芸員資格取得
卒業後、青森市教育委員会、岩手県滝沢村文化財調査事業企業組合、(株)コクドリサーチを経て、平成23年から奥尻町教育委員会事務局社会教育係、学芸員



学芸員は、歴史・文化・自然などに精通した“島のハカセ”。 地域の人々とふれあい、島の過去・現在・未来を発信する。

**奥尻にたどり着くまで不安定ではあったが、
学芸員になるという強い思いを持って努力してきた。**

山田 稲垣さんが北海学園大、人文学部を選んで、学芸員課程を専攻されたのはどうしてだったのですか？

稲垣 日本文化を広く学び、より深く興味を持って探究できるものを見つけ、学芸員課程で資格を取りたいと思ったからです。昔から考古学に興味があり、学芸員課程の考古学の授業はⅠ・Ⅱを1年間で履修するのですが、単位に関係なく4年間ずっと出続けました(笑)。

有田 奥尻の学芸員になるまでは、どのようにされていたのですか？

稲垣 4年生になった当初はなんとなく民間就職を考えたのですが、6月には就活をあきらめて運転免許を取りに行っていました(笑)。そんなときに、学芸員課程の恩師、宮宏明先生とたまたま実習室で遭遇し、就職のことはすっかりお任せすることにしました。すべて自分一人で行うのではなく、素直に人を頼るのも選択肢の一つ。この出会いが私の運命を決めました。青森市教育委員会の文化財課埋蔵文化財調査補助員を紹介していただきました。このころから、自分のライフワークとなった戦跡考古学や戦争遺跡についての研究もスタートさせました。一方で、正職員を目指し、2年間で4カ所の学芸員採用試験を受けましたが、いずれも不合格に。事業縮小による人員削減もあり、またしても恩師から岩手県滝沢村の文化財調査事業企業組合を紹介していただきました。下請けの零細企業で、富山、新潟、宮城と毎年違う遺跡の発掘現場に派遣されましたが、ここも経営悪化でリストラされてしまいます。東京の多摩市にある(株)コクドリサーチに就職しました。関東、特に東京、神奈川、千葉が開発が盛んで、道路拡幅やビル建設のための試掘調査、石造物の悉皆調査など莫大な数の仕事がありました。東京に出てきて、初めて本格的な民間の文化財調査会社に入社したのですが、“自分の給料は自分で稼げ”というような感じで、会社の利益を生み出すために、いかに効率よく業務をこなすかを考えさせられました。業務は大変でしたが、社長はじめ社員の皆さんが親切にしてくれて、田舎者の私もなんとか大都会

で生きていけました。平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、福島原発事故も起きて混乱を極める中、納期直前で多忙な時期に奥尻町職員採用試験が行われ、ようやく念願の学芸員になることができました。奥尻に赴任するまでは、全国を転々とする不安定な生活でしたが、学芸員になるという強い思いを持ちつづけ、自分なりに努力してきたつもりです。

**みんなの文化財は、露出展示を基本にしたい。
文化財に触れて、物の感触や本質を感じ取ってもらいたい。**

浅妻 現在の仕事や研究の様子、島の魅力について教えてください。

稲垣 奥尻島は日本海に浮かぶ自然豊かな離島で、人口は2,700人程度。少子高齢化が進んでおり、基幹産業である漁業も資源の減少などで低迷しています。私は社会教育係の一員で、文化事業や体育事業を担当し、専門知識が必要とされる学芸員としても活動しています。学芸員の仕事は、島の歴史・文化・自然などなんでも答えられる、一言でいえば“島のハカセ”です。まだまだ知識不足なので、島の人と積極的に交流を図って勉強しています。私の活動拠点は奥尻町海洋研修センターですが、観光シーズンの5～10月は週2回、島の北端にある廃校を利用した稲穂ふれあい研修センター歴史民俗資料展示室で仕事をしています。考古遺物、古民具、自然環境などをテーマに展示し、主に島外からのお客さんを案内しています。本物の土器の感触や石器の握りやすさなどを体感し、質感や先人の知恵と道具の発達を感じ取ってもらいたいと思っています。また、小学生の社会見学や総合学習で、古民具の説明や勾玉・土器づくりも担当しています。

佐々木 『ふるさと奥尻通信』の発行も一人でされているんですね。

稲垣 奥尻は離島なので、積極的に情報発信していくために、A4判の学芸活動だより『ふるさと奥尻通信』を毎月1回発行していて、取材・執筆・編集・印刷・発行まで、すべて一人でやっています。町外の人も、役場のHPで閲覧することができます。記事作成のための取材で自分の

■インタビューー



蟬塚 咲衣

人文学部1部
日本文化学科3年
学芸員課程履修中
(札幌平岸高校卒業)



佐々木 理子

法学部1部
法律学科3年
学芸員課程履修中
(札幌手稲高校卒業)



山田 穂乃花

人文学部1部
日本文化学科2年
学芸員課程履修中
(北海学園札幌高校卒業)

知識も深まり、島の情報も蓄積されていきます。

**観光マインドを持った学芸員であると同時に、
奥尻島文化研究会やチーム島おこしの活動にも注力したい。**

蟬塚 奥尻では、観光とも連携した学芸活動が要求されると思います。
稲垣 奥尻は、東日本大震災の影響もあって、津波被害から復興した島というイメージが強いのですが、縄文時代の遺跡があることや稲作をやっていることは、あまり知られていません。島には郷土史研究会がなかったの、自ら奥尻島文化研究会を結成しました。島人が気軽に集まって自由に意見を交わすことで、地域の情報共有や知識向上を図り、一人ひとりが島ガイドになればと思っています。また、化石やオクシリエビネの野外観察会、奥尻鉱山跡の探検なども行って、新たな観光資源として保全・保護にもつなげていきたいと思っています。

佐々木 1年程前に、ある大臣の「学芸員に観光マインドを持ってもらう必要がある」という発言が話題になりました。

稲垣 学芸員の間でも反発が多かったのですが、文化財保護にお金がかかっているのだから、もっとオープンにして融通をきかせてほしいというのが真意だと思います。とかく学芸員は、専門性を追求するあまり視野が狭くなり、社会性に乏しいと思われがちですからね。文化財はガラスケースに入っているのが一般的ですが、みんなのものなので、実際にさわりながら活用したいと考えています。土器は、もともと壊れていたものを復元しているので、欠けてもまた直せばいい(笑)。ただ、道指定文化財は、さすがにガラスケース越しですので、1年中見てもらえるように、冬場は閉館するふれあいセンターから海洋研修センターに移して展示しています。

浅妻 インバウンド振興に関連して、自然体験活動指導者——NEALリーダーの資格が目目されていて、僕も講習を受けるつもりです。

稲垣 奥尻はいわゆる有人国境離島とされているので、インバウンド予算だけでなく、より重点的に国の予算がつきやすいです。NEALリーダー研修もすでに何回かやっていますが、私は講習の全部には出られなかったの、資格は持っていません。奥尻の昨年度の外国人観光客は65人くらいと少なく、知名度は低いのですが、まずは文化財についての英語の説明看板をインバウンド予算でつけ始めているところです。

山田 「チーム島おこし」という青年組織が活動を始めたそうですね。

稲垣 昔の青年団みたいなので、最近20人くらいで組織し、私もその一員です。お花見やBBQなどのイベントなど、島全体で楽しいことを共有し、お年寄りの家の雪かきや浜辺の海浜清掃、自己研鑽のための勉強会や研修など、地域貢献や地域活性化につなげていきたいですね。

蟬塚 奥尻高校が生徒の全国募集を行う、島留学も注目されています。

稲垣 島留学は昨年度から始まったばかりで、今年度は東京・福岡・千葉や道内各地から16人、島内からは6人が入学しました。島留学で、島の活性化を担う人材を育成することも期待されていて、島民に島の現状について話してもらい、課題を高校生に考えさせるという取り組みも行っています。しかし、生徒の声が直接行政に届くところまではいってなくて、部活の遠征費をクラウド・ファンディングで集めるなど、学校生活に関わる部分での取り組みという段階です。卒業後、島に根づいてくれればありがたいですが、島での就職はなかなか難しいでしょうね。



**郷土の歴史と文化は、自分たちの手で担うもの。
自然な態度で歴史や文化、郷土に接していく。**

有田 今後、どういう活動をし、どういう学芸員を目指していますか？

稲垣 奥尻は、よくも悪くも島時間的なゆったりとした雰囲気があります。だから、独自進化というか、こういうやり方でもいいよねっていうものを目指していきたいですね。学芸員は私1人で、離島ということもあり、外から見られることが少なく、自由にできる反面、このぐらいでもと妥協してしまいがちです。自己流に解釈して安易な方向に流されてしまわないように、自分で律するというのを肝に銘じておかないとダメですね。また、学芸員活動は外から見えづらいので、資料を整理し、情報を抽出してまとめたり、討論したり、そして発信するところまでおろそかにしないようにすることが大事です。

蟬塚 いま学芸員課程で学んでいる方、これから学ぼうとしている方にアドバイスをお願いします。

稲垣 私の例は参考になりませんが、まずは学芸員になることをあきらめないことですね。こういう分野の学芸員になるという明確な意志を持つことは大事ですが、活動しながら自分の方向性を定めていくという手法でもかまわないと思います。自分の好きな分野、興味のあるテーマをより詳しく学んでみる。そして、自然な態度で歴史や文化、郷土に接していけば、道は拓けるはず。郷土の歴史と文化は、自分たちの手で担うもの。地元の活動にアドバイスを送るのも学芸員の務めです。学芸員は、地域の人々と気軽にふれあえる恵まれた立場にあるわけですから、日常的に“歩く、見る、聞く、そして書く”ことを実践してほしい。

佐々木 これからの奥尻をどのようにしていきたいと思っていますか？

稲垣 社会を変えるのは「よそ者、若者、ばか者」といわれますが、若者の年齢ではなくてきたので、よそ者、ばか者の精神は失わずに、外から情報を持ってきたいと思っています。学芸員課程の奥尻研修などで現役学生や先生たちと接し、あるいは民間の方々や接していくことを通して、どうしても閉鎖的になりがちな奥尻が島外からどのように見られているかなどを伝え、ちょっとずつでも島に刺激を与えていきたいと思っています。

手塚先生より

学芸員課程を修了し、社会に巣立った元学生たちから仕事上の悩みを打ち明けられることがあります。そんなとき、私が口にするのは「今の仕事を愛している?」「その仕事に誇りを持っている?」「常に何か努力をしている?」という3つの質問です。同時に達成するのは難しいのですが、稲垣さんは自然体でさりげなく実践していらっしやる。現状に満足せず、学芸員の仕事を心から楽しみ、島内外の人々と親しく交わる努力を怠らない。好きだからこそ継続もでき、改善点が次々に見つかる。紆余曲折を経ながらも夢を簡単にあきらめない。さまざまなご経験が現在の稲垣さんを形作っていると感じました。先輩の背中から学生たちが学ぶことはきっと多いはず。



浅妻 佑軌
人文学部 1部
日本文化学科 2年
学芸員課程履修中
(札幌東陵高校卒業)



有田 くるみ
人文学部 1部
日本文化学科 2年
学芸員課程履修中
(小樽桜陽高校卒業)

■オブザーバー ■
人文学部
日本文化学科教授
手塚 薫

日本文化学科

手塚 薫

3年ゼミ(1部)

【文化人類学、博物館学】



21世紀に入り、人をとりまく環境が激変し、各地で価値観の違いが表面化しています。文化人類学という異文化と自文化の差異に着目する手法を中心に据え、新しいパラダイムを模索するのがこのゼミのねらいです。

専門知識をあらかじめ持っている必要はありません。文献カードの作成、データの取り扱い、パラグラフライティングによるレポート作成、プレゼンテーションの基本を身につけていきます。並行して人類・考古・アイヌ学文献の輪読を通じ、発表をもとに全員で話し、クリティカル・シンキングの能力を向上させます。

さらに、広い視野での動機を大切にしながら研究課題を設定し、先行研究を読み込み、問題点を明確にしたうえで仮説を立て、データを収集して検証し、その結果をアウトプットします。学んだ基本スキルを一連のプロセスに適用します。他人の話によく耳を傾け、自



身の意見もしっかり表明してもらいます。

卒業後の社会では、どんな職種においても、異なる文化背景で育った多種多様な人たちと接し、意見調整を続けながら職務を遂行していくはずで、文化の違いを前提としたアプローチは様々な意見を統合するうえで有用です。身につけた基本的スキルと問題解決方法は、課題に対処するための情報を的確に処理し、他人を説得するレポートを作成するという現代の社会人にとって必須の財産になることでしょう。まだ誰にも知られていない知の価値を、一緒に探求していきましょう。

ゼミ紹介

英米文化学科

柴田 崇

3年ゼミ(1部)

【メディア論、生態心理学】



今日、テレビや新聞でAIやロボットのことを見聞しない日はありません。21世紀はじめの今が人間にとって大きな転換点であるとの予感にはそれなりの根拠がありそうですが、では、一部の人が予言するように、AIが人間の知能を凌駕する日は、近い将来、本当にやってくるのでしょうか？

めまぐるしい変化にいたずらに戸惑うことなく、技術の不可避の進歩を前提にしつつ、人間にとってよりよい未来を構想するには、まず現在に至る技術の歴史を踏まえることが必要です。さらに、「知能」とは、「人間らしさ」とは、といった原理的な問いかけから、巷に流布する言説を吟味する哲学的な態度も併せて必要です。

実際、技術の歴史を繙くと、それぞれの時代の代表的な思想家たちは、その時代の技術について考えをめぐらせています。技術の歴史の勉強は、技術についての思想の歴史することでもあるのです。過去の思想家たちの技術についての論考は、今を読み解く上で参考になるはずです。しかし、どれほどの大家の思想でも当時の技術を前提に考えられた、という限界がある



ことは忘れてはなりません。科学や技術の進歩に乗り越えられてしまった思想もあります。

このゼミでは、AI、情報、インターネット、サイボーグに関する本のうちでも特に最近の科学的知見が反映されているものを取り上げて精読します。コンピュータ科学、脳科学、認知科学等の最先端の情報を補いながら読む作業は、難渋を極めるものになるはずで(すでに苦戦していますね…)。実現可能な未来を構想するために必要な手続きと心得て、これからも地道な読解に励みましょう。

AIやロボットへの問が知能や人間らしさへの問につながっていることから分かるように、結局、このゼミの終着点は人間の理解にあります。人間とは何か？ その壮大な問への答に向けて、一步一步、歩いていきましょう。

新任教員紹介



英米文化学科 准教授 **渡部 あさみ**

WATANABE Asami

担当科目: 英語リーディング、アメリカ文化特論、英語文化演習、人文学演習

今年4月に人文学部英米文学科に着任いたしました。一般教育の英語科目、人文学部の授業やゼミ、大学院科目を担当する予定です。私は札幌出身で、人生のほとんどをこの地で過ごしてきました。札幌以外では、アメリカのシカゴとワシントンDCの近くにそれぞれ2年ほど住みました。専門は現代アメリカ文学・文化で、これまでは特に現代エスニック・アメリカ女性文学を研究してきました。このような作品について、人種/エスニシティ、ジェンダー、階層などの文化的な違いの影響に注目し、現代の「アメリカ」や「アメリカ人」のアイデンティティ

について探っています。その他、映画や音楽、生活文化についてなど、広くアメリカ文化に関心を持っております。

皆さんには興味があれば、学生であるうちにぜひ外国に行ってみることをお勧めします。視野が広がり、その後の人生の選択も変わっていくと思うからです。新たな可能性を発見するような経験もきっとあるはずですよ。今後さまざまな関心を持つ皆さんの、大学での学びの一助となることができれば幸いです。



日本文化学科 講師 **関本 真乃**

SEKIMOTO Masano

担当科目: 日本文学史Ⅰ、日本文学特論Ⅰ、日本文化専門演習、人文学演習

今年度より日本文化学科に着任しました。私の専門は日本古典文学で、中古中世の物語文学、『源氏物語』の影響を受けた文学を中心に研究しています。

『源氏物語』が成立して以降、『源氏物語』を模倣した物語はたくさん制作されました。それらは、現代の価値観からすれば、オリジナリティに欠けた二次創作物に過ぎないかもしれません。しかし、それらがどのような文化、社会の中で成立したのかを踏まえて読み直すと、その時代を生きた人々の思想、感情、智恵の詰まった豊かな世界がひらけてきます。古典文学は決して堅苦しいだけのものではありません。そう感じさせてい

るものは、我々の常識であることが多いのです。

授業では、一文一文を丁寧に読み解くこと、自分で考えて判断を下し、さらに修正を施すというプロセスを大切にします。そして作品の立体的な理解を目指し、みなさんと共に古典文学の魅力を発見していきたいと思っております。

私は大阪出身で、学生時代から3月まで京都で暮らしてきました。気候も違えば言葉も異なる札幌での生活は、京都という土地・そこで育まれた文化を見つめ直すうえでもとても刺激的です。

2017年度

卒業研究 コンテスト

Graduation work
Contest

2017年度で5回目を迎えた卒業研究コンテストが、3月10日(土)に開催されました。応募は13件と過去2番目に多く、英語で書かれた論文も4本ありました。応募作はいずれも力作で甲乙つけがたく、今回は通常1本の最優秀賞を特別に2本、優秀賞を通常通り2本選出しました。受賞者のみなさんのプレゼンテーションも立派で、1部・2部、日本文化・英米文化という枠を超えた活発な議論が行われました。

最優秀賞

佐藤 尚暁さん 1部 日本文化学科/鈴木英之ゼミ

九条兼実と明恵上人の夢

【講評】

九条兼実と明恵上人の夢解きを比較しながら、日本中世における夢の様相について論じています。従来、兼実の夢解きが世俗的で価値が低く、逆に明恵が高く評価されているようですが、中世において



は、兼実の夢解きの方がむしろ標準的なものであると論じ、夢に一喜一憂し、心理的一体感を高め深めていた「夢語り共同体」に関して、兼実と明恵の相違点だけでなく、実際には共通点もあったことを解明しています。一次資料の綿密な読みに基づいて分析された優れた論文に仕上がっています。

最優秀賞

工藤 怜奈さん 1部 英米文化学科/佐藤貴史ゼミ

キリスト教における多様な性のあり方 —神学的解釈を用いて—

【講評】

「性的少数者」の受容にスポットを当て、その是非について検討をしています。20世紀を代表する神学者であるカール・バルトやエーミル・ブルナーの教義学で重視される「交わり」の前提となる「性的両極性」と「個性」を取り上げ、「性的両極性」が「個性」を示す一つの指標であると論じ、「個性」が強調されると男女に限定される必要はなくなる、としています。こうした多様な性のあり方の受容を、聖書だけでなく、キリスト教神学の観点からも論じている点が高く評価されました。



優秀賞

高松 梨奈さん

1部 日本文化学科/テレント・アイトルゼミ

文学における月一月見を忌む記述の来由—

長谷山 和奏さん

1部 英米文化学科/小柳敦史ゼミ

ゴシック大聖堂の装飾への評価

敢闘賞

石塚 亜衣さん (1部英米/森川慎也ゼミ)

太田 莉央さん (1部英米/米坂スザンヌゼミ)

奥村 活弥さん (1部英米/米坂スザンヌゼミ)

木田 健介さん (1部英米/米坂スザンヌゼミ)

佐藤 太治さん (1部英米/柴田崇ゼミ)

若山 ななみさん (1部英米/上野誠治ゼミ)

西山 雅志さん (2部日文/追塩千尋ゼミ)

東 眞由さん (2部英米/小松かおりゼミ)

下山 さくらさん (2部英米/佐藤貴史ゼミ)

2017年度卒業研究題目一覧（一部）

◆日本文化学科

言語文化 【言語】	<ul style="list-style-type: none"> ● オノマトベ研究—荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険』に見るオノマトベの特徴分析— ● 「かわいい」とは何か—対象や要素から考える— ● 日英の職場におけるコミュニケーションスタイルの違いを映画から考察する ● 日本語の「蛇」のことわざ—「神」の捉え方について— ● 日本人らしさのステレオタイプについて—「日本人らしさ」とは— ● 北海道方言の現状
言語文化 【文学】	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本近代文学における恋愛観とその行方—西洋の「愛」と日本の「恋」を中心に— ● 『源氏物語』における夕霧の物語の役割について ● 文学における月—月見を忌む記述の来由— ● 「翻訳のエッセンス」を求めて ● 小説『砂の女』と映画『砂の女』の対比 ● 現代の表現規制に晒されたアニメ・マンガ等—東京都の事例から考える—
思想文化	<ul style="list-style-type: none"> ● ウォルト・ディズニーの生きた時代—すべては一匹のネズミから始まったのか— ● 『ゴジラ』と『シン・ゴジラ』の脅威とは ● 映画『ブレッドランナー』から見るフィリップ・K・ディックの夢見た世界とこれから ● アニメ監督『新海誠』について—新海映画から見る、人の距離と時間— ● ビデオゲームの歴史—ビデオゲームは我々に何をもたらしたのか— ● ゾンビという大衆文化—宗教的観点から—
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ● ウルトラマンとその時代 ● 「平安時代における宮廷音楽—『古今著聞集』にみる「音楽」とは—」 ● 平安時代の仏教と女性の関わり—『往生伝』の分析を通じて— ● 鎌倉幕府三代将軍 源実朝の人物像 ● 和食の形成過程と日本における肉食受容 ● 北海道高校野球の歴史と将来
環境文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の美人観—江戸時代から現代まで ● 「日本食」の歴史と「和食離れ」の現状 ● 動物の命との向き合い方 ● 古本を扱う仕事の実態 ● 化粧の有用性 ● 絵馬と祈願

◆英米文化学科

言語文化 【言語】	<ul style="list-style-type: none"> ● 『アナと雪の女王』"Let It Go"の歌詞構造について ● ディズニー映画における口語定形表現及び依頼表現の使用例 ● シャドーイングが英語習熟度と学習者心理に与える影響—ダイアリー・スタディーを通じて— ● ビジネスの場における英語使用について—非英語母語話者が取り入れるべき丁寧表現とは— ● The use of film, TV drama, and animation as materials for self-study ● Vocabulary knowledge in the tourism industry
言語文化 【文学】	<ul style="list-style-type: none"> ● 『老人と海』(The Old Man and the Sea) の一考察—老人サンチャゴが敗北の先に見つけたものとは— ● ジョージ・マクドナルド『北風のうしろの国』における主人公のロマン主義的子ども像—二面性と物語構造を中心に— ● 原作と映画の比較研究—Lyman Frank Baum The Wonderful Wizard of Ozの場合— ● チャーリー・ゴードンに託されたダニエル・キイスのメッセージ—Flowers for Algernonのチャーリー・ゴードンが歩む人生をみる— ● J. R. R. TolkienのThe Hobbitにおけるビルボの反英雄性—なぜトルキンは反英雄的人物を主人公にしたのか—
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本におけるヘイトスピーチの法規制の可能性～欧米の事例を参考に～ ● アメリカにおけるヒップホップの発展—なぜ黒人文化が広まったのか— ● メジャー・リーグとアメリカ社会の人種問題(1845-1970) ● 韓国人の他民族・他人種観—対米認識を中心に ● フランス革命と女性の歴史 ● ウィリアム・ホガースの図像から見るファッションと階層の関係
思想文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海学園大学生の異文化コミュニケーション能力 ● 「ハリー・ポッター」シリーズに公民権運動をみる ● ヨーロッパにおける移民問題—争点の重要性について— ● ショパン作曲の背景—理想と悲哀の関係性について— ● ゴシック大聖堂の装飾への評価 ● クリスマスの変遷
環境文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の結婚観とウエディングドレス ● 人工知能時代—人とAIの分業 ● 在日外国人の食文化—札幌のシェアハウスから— ● 世界における紅茶の文化と健康 ● ジャニーズの魅力 ● ジブリと『食』

英語外部試験を使って 入試のチャンスを増やそう!

いろいろな試験が使えます

- 人文学部は、「読む」「書く」「聞く」「話す」英語 4 技能の学習に取り組んでいる高校生を積極的に受け入れ、高度な英語コミュニケーション能力を持つグローバル化に対応した人材を育成します。
- 各種英語 4 技能試験で、出願時まで獲得した最高得点が入試で使えます。

英語外部試験を活用した一般入試の仕組み

従来型の入試問題 外国語 ① 1部 英米文化学科 ② 2部 英米文化学科 ③ 1部 日本文化学科 選択 (英語) ④ 2部 日本文化学科	OR	使える英語4技能試験 実用英語技能検定 (CSE2.0) GTEC CBT GTEC Advanced 3 技能 [オフィシャル・スコアに限定] GTEC Advanced 4 技能 [オフィシャル・スコアに限定] ケンブリッジ英語検定 IELTS TEAP TOEFL iBT TOEIC L&R + TOEIC S&W <small>※実用英語技能検定は各級の合格ではなく、CSE2.0を基準とする。※GTEC Advanced 3 技能(旧 GTEC for STUDENTS)は2017年12月実施のみ利用可能とする。2018年6月以降実施分は利用できない。※TOEICは、Listening&Reading、Speaking&Writingともに公開テストのスコアであり、その合計点を基準とする。</small>	従来型の入試問題 + ① 国語 選択 + ② 選択 + ③ 国語 選択 + ④ 国語 <small>※ 2部日本文化学科の選択科目では、「英語」以外を選ぶことも可能です。試験科目の詳細については</small>
--	----	---	--



北海学園大学 Web サイトの受験生向けページ
<http://hgu.jp/visitor/admission/>
 でご確認ください。

高い得点を合否判定に利用

平成 31 年度入試 英語 4 技能試験 / 一般入試 外国語 (英語) 換算表

英語外部試験名		基準スコアと換算点			
		○人文学部 1部・2部日本文化学科、2部英米文化学科 (100点満点)			
		70点に換算	80点に換算	90点に換算	100点に換算
○人文学部 1部英米文化学科 (150点満点)		105点に換算	120点に換算	135点に換算	150点に換算
1	実用英語技能検定 (CSE2.0) 準 1 級・1 級 2 級	2000 - 2099	2100 - 2199	2200 - 2299	2300 以上
2	GTEC CBT	760 - 819	820 - 899	900 - 1029	1030 以上
3	GTEC Advanced 3 技能 (旧 GTEC for STUDENTS) [オフィシャル・スコアに限定]	520 - 559	560 - 609	610 - 689	690 以上
4	GTEC Advanced 4 技能 [オフィシャル・スコアに限定]	870 - 939	940 - 1009	1010 - 1129	1130 以上
5	ケンブリッジ英語検定	145 - 154	155 - 164	165 - 174	175 以上
6	IELTS	4.0	4.5	5.0	5.5 以上
7	TEAP	235 - 259	260 - 279	280 - 299	300 以上
8	TOEFL iBT	55 - 64	65 - 74	75 - 84	85 以上
9	TOEIC L&R + TOEIC S&W	700 - 775	780 - 905	910 - 1045	1050 以上

- 平成 30 年度一般入学試験から、英語 4 技能試験の結果が使えるようになりました。
- 英語 4 技能試験のスコアを提出しない場合、これまで通り、一般入学試験の得点で合否が判定されます。
- 出願時に英語 4 技能試験のスコアを提出した場合、一般入学試験当日に受けた「外国語」「選択 (英語)」の得点と英語 4 技能試験の得点を比較し、高い方の得点を利用して合否を判定します。(得点換算については左の表を参照)

お問い合わせ先

北海学園大学入試部入試課
フリーダイヤル

0120-86-2244

平日 9:00 ~ 16:00 (12:40 ~ 13:40 を除く)
土曜 9:00 ~ 12:40
〒062-8605 札幌市豊平区旭町 4 丁目 1-40

人文学部 TOPICS

カズオ・イシグロ作品の特徴と魅力—第15回人文学の挑戦報告

人文学部では、本学教員の研究成果を広く地域社会に還元するトークイベント「人文学の挑戦」を紀伊國屋書店札幌本店で開催しています。3月25日に行われた第15回目では、2017年のノーベル文学賞受賞作家カズオ・イシグロをテーマに、イシグロ作品を専門とする本学英米文化学科講師・森川慎也先生によって、作品の特徴やその魅力が紹介されました。100名を超える皆様にご来場いただき、イシグロ文学に対する注目度の高さが感じられました。次回第16回は、内村鑑三をテーマに開催予定です。ぜひ足をお運びください！詳しくは人文学部 web ページ、facebook、twitter をご覧ください。



『はじめての人文学—文化を学ぶ、世界と繋がる』刊行!

佐藤 貴史・仲松 優子・村中 亮夫【編著】
田中 綾・手塚 薫・柴田 崇【著】

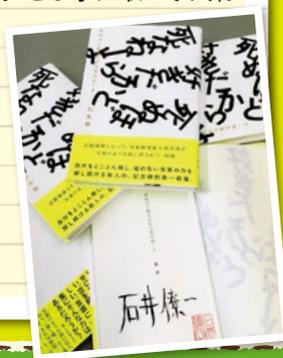
人文学を学ぶ意義とは何か?人文学部の教員たちが講義の経験や現実問題を意識しながら、日本近現代文学、思想史、フランス近世・近代史、人類学、メディア論、地理学などの多彩な視点から、文化を学び、世界と繋がる道を示します。他者と共に創造的な未来を切り拓くために、「文化」の視点から応え、文化や世界をどのように語りうるのか? 大学における学問とは何かを知るきっかけにもなります。ぜひご一読を!



人文学部 OB・石井僚一さんの第一歌集が刊行されました!

第57回短歌研究新人賞(2014年)を受賞した石井僚一さん(日本文化学科2011年度卒)の第一歌集『死ぬほど好きだから死なねーよ』(短歌研究社)が刊行されました。活字の大きさが目を引く斬新な装幀は、木下古栗さんの小説なども手掛けた、「セキネシンイチ制作室」! ネットでも話題の1冊です。ぜひ手に取ってお楽しみください。

「可能なら、この歌集を読んで生きてほしい。幸せになってほしい。空を飛んでほしい。言葉に、歌集にそんな力はあるだろうか?」(あとがきより)
※7月7日にトークイベント開催!
(詳しくは人文学部 web ページ、facebook、twitter で)



ようこそ人文学部へ! 2018年度人文学部新入生歓迎会

4月8日、2018年度人文学部新入生歓迎会が大学生協食堂 G'caFe にて開催されました。新入生にいち早く大学生活に馴染んでもらい、大学生活をスムーズにスタートできるように、人文学部の上級生が企画・実行している催しです。5回目を迎える本年度の歓迎会には、約110名の新入生の参加がありました。ティーパーティーの前後には上級生による履修相談会も開催され、多くの新入生が先輩方に履修について分からないことを熱心に相談していました。



就職・進学情報

[2018年5月までの集計結果]

2015～2017年度 卒業生内定先・公務員登録先 (人文学部1部および2部) ※順不同。誌面の関係上各業種一部のみ掲載しています。

業種	企業/団体名
建設業	藤建設工業/武技建創/北海道セキスイハイム
製造業	きのとや/総合商研/日進工業/北海道コカ/コアラボトリング/北海道電力/北日本石油/六花亭製菓/東洋水産
運輸業	日本航空/全日本空輸/ANAウィングス/ANA新千歳空港/スカイマーク/AIRDO/JALスカイ札幌/ヤマト運輸/日本通運/佐川急便/北海道中央バス/北海道旅客鉄道
情報・通信業	エイチ・デー・ピー映像/ソフコバンク/DMM.com OVERRIDE/USEN/マイナビ/リクルート北海道じゃらん/十勝毎日新聞社/北海道アルバイト情報社/北海道建設新聞社
卸売業	丹羽屋/オンワード樺山/大丸藤井/資生堂ジャパン/札幌トヨタ自動車/ヨコハマタイヤジャパン/ヤンマーアグリジャパン/日本ハム北海道販売/大槻食材/日本観光商事/北海道トンボ/北海道日野自動車
小売業	イオン北海道/アークス/DCMホーマック/ネットヨタ道部/キタムラ/ケリング ジャパン グッチ ディヴィジョン/ジーユー/セブン-イレブン/ジャパン/セコマ/サッポロドラッグストア/ツルハ/ヨドバシカメラ/ロクシタンジャパン/札幌丸井三越/東光ストア/もりもと/生活協同組合 コープさっぽろ/ニトリ
金融・保険業	SMBCコンシューマーファイナンス/あいおいニッセイ同和損害保険/かんぽ生命保険/北海道銀行/札幌中央信用組合/農林中央金庫/三井住友海上火災保険/住友生命保険/損害保険ジャパン日本興亜/第一生命保険/日本生命保険/明治安田生命保険
不動産業	住友不動産販売/ビッグ/一条工務店/住居時間/常口アトム/明和地所
飲食業	ゼンショーホールディングス/フロントコーポレーション/丸千代山岡家/京都吉兆/幸楽苑ホールディングス/大庄/日清医療食品
宿泊・旅行業	トーホウリゾート/カラカミ観光/加森観光/野口観光/ルートインジャパン/JTB北海道/エイチ・アイ・エス/ハマノホテルズ/阿寒グランドホテル/京王プラザホテル札幌/近畿日本ツーリスト北海道/星野リゾート・トマム/東武トップツアーズ
教育・学習支援業	千歳科学技術大学/北海学園/北海道栄高等学校/北海道文教大学明清高等学校/北海道立正学園旭川実業高等学校/さっぽろ青少年女性活動協会/自分未来きょういく/練成会
医療・福祉業	研成会/雄心会/徳美会/さくらコミュニティサービス/ベネッセスタイルケア/市立千歳市民病院/はるにれの里/北海道国民健康保険団体連合会
サービス業	日本郵便株式会社(日本郵政グループ)/札幌市水道サービス協会/NOVAホールディングス/アクセンチュア/トランス・コスモス/NTT東日本-北海道/あいプラン/東日本ハウジング/長谷川ホールディングス/東京海上自動車アウトソーシング/中央司法書士事務所
複合サービス業	ひらとり農業協同組合/ふらの農業協同組合/ホクレン農業協同組合連合会/一般社団法人北海道中小企業家同友会/北海道都市開発事業協同組合/北海道土地改良事業団連合会

公務員名称

国家公務員一般職(厚労省・財務省・法務省・国土交通省・防衛省)/警視庁警察官/日本年金機構/北海道職員/札幌市職員/札幌以外の市町村職員(小樽市・旭川市・石狩市・帯広市・砂川市・滝川市・美瑛市・北見市ほか)/北海道警察/自衛隊一般曹候補生/陸上自衛隊/国立大学等法人職員

2015～2017年度 教員採用状況

2015年度					2016年度					2017年度				
教員	科目	合格者数			教員	科目	合格者数			教員	科目	合格者数		
		()内は過年度卒業生					※()内は講師(期限付)					※()内は講師(期限付)		
公立学校	国語	中学	1(1)	1(1)	公立学校	国語	中学	1(1)	4(3)	公立学校	国語	中学	0(1)	1(6)
		高校	0				高校	3(2)				高校	1(4)	
	英語	中学	2(1)	3(2)		英語	中学	4(4)	5(5)		中・高	0(1)		
		高校	1(1)				高校	1(1)						
私立学校	国語	高校	0	私立学校	国語	高校	2(2)	私立学校	国語	高校	0(1)			
	英語	高校	1(0)		英語	高校	1(0)		英語	高校	0(1)			

※2016・2017年度は現役卒業生のみ

2015～2017年度 進学先情報

2015年度

東北大学大学院文学研究科修士課程(1名)
一橋大学大学院社会学研究科修士課程(1名)
上越教育大学大学院学校教育研究科修士課程(1名)
北海学園大学大学院文学研究科修士課程(2名)

2016年度

一橋大学大学院社会学研究科修士課程(1名)
立教大学大学院文学研究科修士課程(1名)
北海学園大学大学院文学研究科修士課程(1名)

2017年度

北海道大学大学院国際メディア・観光学院修士課程(1名)
北海学園大学文学研究科修士課程(2名) 博士課程(1名)

留学状況

年度	学年	1部 日本文化				1部 英米文化				2部 日本文化				2部 英米文化				カナダ	韓国	中国	ロシア	欧州	マレーシア	豪州	NZ	米国	イギリス	フィンランド	メキシコ	計(人)
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4													
2015		1	1	3		3	16	1	3						2	2	2	22	4		3			2		1		3		34
2016				3	3		13	8	4			2			2	4		19	7		1			10		1			1	39
2017		2	3	2	1	10	18	6	6			1			1	5	2	35	9	1	3			4		3	1	1		57

※次の留学を経験した学生を算出しています。

・英米文化特別演習 ・国際文化特別演習 ・日本語教育特別演習 ・協定校留学 ・協定校ではないが、国際交流委員会経由の留学 ・休学期間中の留学 ・その他

資格取得状況

【修了者人数】

	2015年度	2016年度	2017年度
日本語教員養成課程	47	43	35
図書館学課程(司書)	62	33	21
図書館学課程(司書教諭)	13	2	1
教職課程(中学・高校国語)	32 ※内4名は高校のみ	16 ※内3名は高校のみ	17 ※内3名は高校のみ
教職課程(中学・高校英語)	15 ※内1名は高校のみ	16 ※内1名は高校のみ	14 ※内3名は高校のみ
教職課程(高校地歴)	12	8 ※日文6、英米2	6 ※日文5、英米1
学芸員課程	24	13	12
社会教育主事課程	3	3	0

ヒューマン 2018.6 Vol.11

表紙キャッチコピー「好き」から「なぜ」を探そう:

人文学部日本文化学科4年 植松満衣さん
皆さんの好きなことは何ですか? スポーツ、映画、本、食べ物、人……。

人文学部にはそんな「好き」を材料に生まれる「なぜ」を探し、答えに辿りつくためのツールが多くあります。好きを追究することは物事を多角的に見る力を養うことができ、ひいては文化や自分自身という人間の理解にもつながるはずです。

文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部

日本文化学科(1部・2部)/英米文化学科(1部・2部)



〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL.011-841-1161(代表) FAX.011-824-7729

URL <http://human.hgu.jp/>

制作・印刷: (株)アイワード PD: 馬場康広 [(株)アイワード 2000年人文学部日本文化学科卒]